

資料・統計

2014年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2014

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 消化器外科		非上皮性腫瘍	0
		食道癌	58
胃		右開胸 (Hals 2)	36
胃癌	263	胸腔鏡下 (Hals 1)	16
Staging laparoscopy	42	左開胸	3
切除		開腹	1
全摘	54	咽喉食道全摘	1
残胃全摘	3	遊離空腸移植	0
噴門側切除	11	食道抜去	0
幽門側切除 (開腹)	75	試験開胸	0
幽門側切除 (腹腔鏡下)	27	頸部リンパ節郭清	0
PPG (開腹)	22	腹部リンパ節郭清	0
PPG (腹腔鏡下)	2	食道切除後2次の再建術	0
分節切除	0	バイパス術	1
SSD・部分切除	1	胃管癌	0
非切除		胃管全切除 (胸骨縦切開)	0
単開腹	0	胃管部分切除	0
バイパス	2	特発性食道破裂	0
その他	0		
再発		肝胆瘵	187
肝転移切除	0	肝腫瘍	
卵巣転移切除	0	肝細胞癌	13
リンパ節郭清	1	肝内胆管癌	4
局所切除	3	転移性肝癌	10
腸切除	1	その他肝腫瘍	1
バイパス	1	胆道癌	
人工肛門造設	0	十二指腸乳頭部癌	10
イレウス		胆嚢癌	14
癒着剥離	3	胆管癌	18
腸切除	0	膵臓疾患	
バイパス	0	膵臓癌	36
人工肛門造設	0	I P M A ・ M C N	1
胃瘻・空腸瘻	0	その他悪性腫瘍	
非上皮性腫瘍		十二指腸癌	2
GIST	9	GIST	3
悪性リンパ腫	1	N H L	2
その他	1	その他悪性	7
その他	4	胆石症・胆嚢ポリープ	34
食道	58	汎発性腹膜炎	2
良性腫瘍	0	ヘルニア	1
		閉塞性黄疸	14

	腹腔内膿瘍	4	ハルトマン手術	0
	他科疾患		骨盤内臓全摘術	0
	その他良性	10	経肛門的切除術	2
	術後合併症	1	非切除術 (人工肛門造設術)	5
術式		189	直腸良性	0
	膝頭十二指腸切除術	34	再発・転移	39
	膝体尾部切除術	12	肝切除術	24
	膝全摘	1	腹膜播種腫瘍切除術	1
	肝切除	15	骨盤内リンパ節郭清術	2
	肝門部胆管癌手術	10	低位前方切除術	2
	胆嚢癌根治術	8	小腸部分切除術	3
	胆管癌手術	2	鼠径リンパ節郭清術	2
	腹腔鏡下胆嚢切除術	30	S状結腸切除術	1
	ラジオ波焼灼術	7	胃腸吻合術	1
	腹腔鏡肝切除術	4	人工肛門造設術	2
	腹腔鏡下肝嚢胞開窓手術	3	スパーサー留置術	1
	腹腔鏡下膝体尾部切除術	2	肝転移	30 (上記原発再発症例に含まれる)
	腹腔鏡下脾摘術	1	異時	24 (上記再発症例に含まれる)
	その他悪性腫瘍切除	6	同時	6 (上記原発症例に含まれる)
	開腹胆摘術	5	その他の手術	50 (内緊急手術 6)
	総胆管結石石切術	4	他科癌・他癌	9
	胆道再建	5	低位前方切除術	2
	PTCD/PTAD	18	右半結腸切除術	1
	その他	20	回盲部切除術	1
	PTPE (重複あり)	2	横行結腸切除術	1
			小腸部分切除術	1
結腸, 直腸手術症例		300	人工肛門造設術	2
原発		211	人工肛門閉鎖術	1
結腸悪性		129	人工肛門閉鎖術	26
(腹腔鏡下手術)		70)	腸閉塞手術 (剥離)	3
右半結腸切除術		56	人工肛門造設術	3
S状結腸切除術		46	人工肛門形成術	2
左半結腸切除術		7	鼠径ヘルニア根治術	2
横行結腸切除術		6	腹壁癒痕ヘルニア根治術	1
下行結腸切除術		4	洗浄ドレナージ人工肛門造設術	1
右結腸切除術		3	痔瘻手術	1
横行結腸下行結腸切除術		2	その他の手術	2
回盲部切除術		1		
結腸部分切除術		1		
前方切除術		2		
低位前方切除術		1		
非切除術 (人工肛門造設術)		0		
結腸良性		1		
(腹腔鏡下手術)		1)		
直腸悪性		81		
(腹腔鏡下手術)		43)		
低位前方切除術		38		
超低位前方切除術		7		
前方切除術		20		
直腸切断術		9		

2014年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道：58件 (13件増加)、胃：263件 (27件減少)、結腸：300件 (6件増加)、肝胆膵：189例 (8件増加) と前年より胃疾患以外は概ね増加していた。鏡視下手術の件数は、食道：16件 (6件増加)、胃：29件 (10件増加)、結腸：114件 (15件増加)、肝胆：36件 (19件増加) であり、鏡視下手術の総数は昨年と比較して増加しており、日常診療における鏡視下手術の重要性が高いことが窺われる。社会的にも鏡視下手術に対する関心度は高く、その根治性はもちろんであるが、安全面においても十分に配慮した手

技および体制が求められている。当院でも鏡視下手術の比重が高くなっているため、安全性においては十分に気をつける必要があると思われる。

(文責：中川 悟)

2. 乳腺外科

外来手術		
乳腺		6
入院手術		
乳腺		
良性+プローベ		3
乳癌		292
Auchincloss	60	} 143
Mastectomy + SLNB	79	
Simple mastectomy	4	
Lumpectomy + Ax	24	} 149
Lumpectomy + SLNB	85	
Lumpectomy	40	
その他		
局所再発 (リンパ節, 創)	11	
温存乳房切除	15	
温存乳房部分切除		
乳房内再発	5	
後出血	0	
その他	3	
【エキスパンダー挿入：上記手術数に算定済み】		
1次2期再建	8	
(うち2例は温存乳房内再発に対して)		

2014年の原発性乳癌手術数は292例で、昨年度より15例減少していた。温存療法は約51%に施行されており、昨年度(60%)より低下している。腋窩リンパ節手術を施行した248例のうち、センチネルリンパ節生検(SLNB)のみで終了できた症例は164例(約66%)であった。乳房切除術(乳房全摘術)が施行された症例が増加しているが、形成外科による乳房再建が当院でも可能になったことも理由の一つと考えられる。今後1次2期再建だけでなく、2次再建も増加することが予想される。乳癌は比較的前後良好であり、患者希望に即した治療選択肢を医療者側も準備する必要があると考える。

(集計・文責 神林智寿子)

3. 呼吸器外科

() 胸腔鏡手術

1. 気管(支)疾患	1
気管癌	1
2. 肺疾患	250 (63)

2-1 良性肺疾患	10 (5)
類上皮肉芽腫	3 (0)
炎症性偽腫瘍	2 (2)
良性肺腫瘍	5 (3)
クリプトコッカス	1 (1)
孤立性線維性腫瘍	1 (1)
転移性平滑筋腫	1 (1)
硬化性血管腫	1 (0)
過誤腫	1 (0)
2-2 悪性腫瘍	240 (58)
2-2-1 原発性肺癌	188 (26)
全摘除	0
肺葉切除	156 (25)
区域切除	26 (0)
部分切除	3 (1)
試験開胸	3 (0)
他	0
2-2-2 転移性肺腫瘍	50 (31)
結腸直腸癌肺転移	35 (23)
子宮頸癌	3 (2)
腎癌	2 (1)
胃癌	2 (1)
肺癌	2 (0)
乳癌	1 (1)
食道癌	1 (1)
肝・胆・膵	1 (0)
喉頭癌	1 (1)
膀胱癌	1 (1)
骨軟部腫瘍	1 (0)
2-2-3 その他の悪性肺疾患	
悪性リンパ腫	2 (1)
3. 縦隔疾患	8 (3)
3-1 縦隔腫瘍	5 (0)
胸腺腫	3 (0)
奇形腫	1 (0)
孤立性線維性腫瘍	1 (1)
胸腺腫再発	2 (1)
他	1 (1)
3-2 縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	16
気胸	7 (4)
膿胸	3 (1)
膿気胸	1 (0)
胸膜中皮腫	2 (1)
術後気漏	2 (1)
他	1 (1)
5. 胸壁疾患	0

2014年の手術総数は288件で、前年とほぼ同数で

あった。肺悪性腫瘍の手術も前年同様240例であった。原発性肺癌手術例は過去3年連続して200症例以上をキープしていたが、昨年は減少し188例であった。それに代わって転移性肺腫瘍の手術が前年の28例から50例と大幅に増加した。内訳としては大腸癌肺転移に対する手術が14例から35例と増加したことが反映される。肺癌に対する胸腔鏡補助下 (VATS) 手術は減少したが、症例を選んで完全鏡視下手術を11例に施行した。今後さらに増加すると考えられる。

(文責 吉谷 克雄)

4. 整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍		
切除術 (切除個数)		115
生検		16
良性軟部腫瘍	計	131
良性骨腫瘍		
切除または搔爬+骨移植		18
切除+人工関節		0
生検		13
良性骨腫瘍	計	31
悪性軟部腫瘍		
広範切除		15
広範切除+皮弁など再建		1
辺縁切除 (術後照射, 化学療法併用)		9
その他		0
生検		5
悪性軟部腫瘍	計	30
悪性骨腫瘍		
広範切除		1
広範切除+人工関節・人工骨頭		1
切除		0
生検		2
悪性骨腫瘍	計	4
転移性腫瘍・脊椎転移性腫瘍		
除圧・後方固定		0
髄内釘・ピンニング		8
切断		0
広範切除+再建		3
人工骨頭置換術		2
切除・生検		14
転移性腫瘍	計	27

腫瘍性疾患	計	223
非腫瘍性疾患		
脊椎疾患		
腰部脊柱管狭窄		0
腰椎椎間板ヘルニア		0
脊椎疾患	計	0
股関節疾患		
人工股関節置換術		2
人工股関節再置換術		2
人工骨頭置換術		5
股関節疾患	計	9
膝関節疾患		
人工膝関節置換術		9
人工膝関節再置換		0
膝関節固定		0
膝関節疾患	計	9
肩・肘・手関節疾患		
腱鞘切開		6
手根管開放術		3
滑膜切除		1
腱移行・腱移植・腱剥離		2
人工肘関節置換術		0
神経移行, 剥離		0
肩・肘・手関節疾患	計	12
足・足関節疾患		
人工関節		0
外反母趾矯正		0
関節固定術		0
足・足関節疾患	計	0
その他		
骨接合術		6
デブリードマン		7
抜釘・異物除去		3
その他		39
その他	計	55
非腫瘍性疾患	計	85
総合	計	308

総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率は72.4%であった。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍72.6%, 悪性骨軟部腫瘍15.2%, 転移性腫瘍12.1%であった。

(文責 有泉高志)

5. 脳神経外科

総手術件数	21
1) 腫瘍摘出術	11
悪性腫瘍	11
良性腫瘍	0
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	4
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	4
4) その他	6
オンマイヤー設置	1
生検術	1
他	4

本年度は一人体制となり、手術総数は激減しました。手術数の減少は頭蓋内腫瘍摘出術の減少で、良性腫瘍である髄膜腫の減少と転移性脳腫瘍の摘出術の減少によるものです。定位放射線治療が53例ありましたので、本来手術適応と思われる腫瘍も、ノバリスで治療を行っている事が影響したものと考えます。

担癌患者でなかった手術症例は2例のみでした。
(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	58
子宮筋腫	34
子宮腺筋症	3
子宮頸部異形成	7
子宮頸癌	8
CIS	
I A1期	3
子宮内膜増殖症	2
APAM	1
腔式子宮全摘出術	8
子宮頸部異形成	4
子宮頸癌	4
0期	
準広汎子宮全摘出	7
子宮頸癌	1
CIS	
I A期 (腺癌)	1
I A2期	1
I B1期	1
子宮体癌	3
広汎子宮全摘出術	14

子宮頸癌	I B1期	5
	I B2期	2
	II A期	0
	II B期	5
子宮体癌		2
子宮体癌手術		45
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清 準広汎子宮全摘以上を除く。子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I A期	24
	I B期	8
	II 期	5
	III A期	1
	III B期	0
	III C1期	2
	III C2期	4
	IV A期	0
	IV B期	1
悪性卵巣腫瘍手術 (原発性)		27
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌、腹膜癌を含む)		
卵巣癌	I a期	2
	I b期	0
	I c期	8
	II a期	0
	II b期	1
	II c期	1
	III a期	0
	III b期	4
	III c期	5
	IV 期	1
卵管癌	III c期	1
腹膜癌	III b期	1
	III c期	2
	IV 期	1
悪性卵巣腫瘍手術 (境界悪性腫瘍)		6
悪性卵巣腫瘍手術 (転移性)		1
子宮頸部円錐切除術		120
子宮頸部異形成		64
子宮頸癌	CIS	52
	I B1期	4
LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)		11
子宮頸部異形成		10
子宮頸癌	CIS	1
その他の悪性腫瘍手術		17
外陰・膣悪性腫瘍手術		3

再発癌手術	8
試験開腹術	3
子宮頸部異形成蒸散	2
GIST	1
<hr/>	
附属器摘出術 (附属器腫瘍摘出術を含む)	28
<hr/>	
子宮筋腫核出術	14
<hr/>	
子宮脱手術	8
膣式子宮全摘出術+膣壁形成術	2
膣式子宮全摘出術+Le Fort手術	6
<hr/>	
腹腔鏡下手術	34
良性卵巣腫瘍	30
乳癌既往症例の付属器摘出	4
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	8
子宮筋腫	4
子宮内膜ポリープ	4
<hr/>	
子宮内容除去術	4
子宮体癌疑い	4
胞状奇胎	0
<hr/>	
その他	8
CVポート抜去	6
腹腔リザーバー抜去	1
組織内照射	0
経管拡張術	1
<hr/>	
計	418

2014年の手術件数は418件であり、前年より減少した。うち198件は悪性腫瘍または関連疾患に対する手術であり、全体の約1/2を占めていた。

(文責 柳瀬 徹)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術	(小計 2)
腹腔鏡補助下小切開副腎摘出術	1
副腎腫瘍生検	1
腎腫瘍および腎の手術	(小計 97)
根治的腎摘出術	19
腹腔鏡下根治的腎摘出術	2
腹腔鏡補助下小切開根治的腎摘出術	1
腎部分切除術	38

腎腫瘍生検	4
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	32
腎その他	1
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術 (小計 148)	
腎尿管全摘出術	43
尿管部分切除術	1
尿管カテーテル法 (留置を含む)	96
尿管狭窄拡張術	5
尿管皮膚瘻造設術	2
尿管損傷修復術	1
膀胱腫瘍および膀胱の手術 (小計 329)	
膀胱全摘出術+回腸導管造設術	16
膀胱全摘出術+尿管皮膚瘻造設術	1
膀胱部分切除	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	300
膀胱内血腫除去・止血術	8
膀胱損傷修復術	1
膀胱瘻造設術	1
膀胱その他	1
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計 13)	
経尿道的尿道腫瘍切除術	1
内尿道切開術	12
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計 391)	
前立腺生検	346
前立腺全摘出術	21
経尿道的前立腺切除術	12
両側精巣摘出術 (去勢術)	12
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計 20)	
高位精巣摘出術	12
後腹膜リンパ節郭清	4
精巣その他	4
陰茎腫瘍の手術 (小計 4)	
全除精術	1
陰茎部分切除術	3
後腹膜腫瘍の手術 (小計 1)	
後腹膜腫瘍 (異所性褐色細胞腫) 摘出術	1
その他 (小計 4)	
総計	1009 手技 (933 件)

2014年の手術件数は933件 (1009手技) で、前年度よりやや減少した。近年と同様、悪性腫瘍の手術とそれに関連する病態に対する手術がそのほとんどを占めていた。腹腔鏡下手術の適応拡大やロボット支援手術の導入などが今後の課題であろう。

(文責 小林和博)

8. 眼科

水晶体再建術: 眼内レンズを挿入する場合	183
水晶体再建術+緑内障手術	2

濾過手術を含む緑内障手術	2
悪性腫瘍を含む眼瞼結膜手術	25
前房硝子体手術	10
合計	222

相変わらず1名による手術体制であるが、2014年の手術件数は、大幅に増えて222件であった。手術の種類が多岐となり、全身麻酔下の腫瘍摘出等、難易度の高い症例も多く、他医から紹介される手術対象患者の比率が増大傾向にある。

一方で、器械の老朽化が著しく、機種更新をすることによって、さらなる手術件数の増加が見込まれる。(文責 原 浩昭)

9. 皮膚科

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	41
基底細胞癌	72
有棘細胞癌	54
ボーエン病	31
日光角化症	27
外陰パジェット病	8
皮膚付属器癌	11
悪性軟部腫瘍	0
悪性リンパ腫	19
転移性皮膚癌	11
他臓器癌リンパ節転移	6
血管肉腫	0
メルケル細胞がん	7
小計	287
良性腫瘍・その他	
母斑細胞母斑	154
上記以外の母斑	13
表皮嚢腫(粉瘤)	101
脂漏性角化症	74
脂肪腫	46
皮膚線維腫・軟線維腫	32
良性皮膚付属器腫瘍	17
血管腫	22
ケラトアカントーマ	11
石灰化上皮腫	22
慢性膿皮症	3
良性神経系腫瘍	8
その他	57
小計	560

2014年の皮膚科手術件数は、前年よりも99件増加していた。悪性腫瘍手術は2013年で既に前年比50件以上の増であったが、2014年はさらに多くなってい

た。良性腫瘍およびその他の手術も2013年より大幅に件数を伸ばした。その多くは日帰りの外来手術であるが、中央手術室でこれだけの件数の皮膚科外来手術をこなしている病院は国内でもまれであろう。その実績は手術室スタッフの全面協力のもとに成り立っており、感謝に堪えない。患者の高齢化に伴って日帰り手術の需要は益々高まることが予想される。これからも医療ニーズに即した手術治療を心掛けていきたい。(文責 竹之内辰也)

10. 頭頸部外科

甲状腺・副甲状腺

副甲状腺腫瘍摘出	1
縦隔内甲状腺腫(バセドウ病) 胸骨正中切開	1
甲状腺良性腫瘍半切	17
甲状腺癌(半切, D1郭清)	48
甲状腺癌(半切, 側頸部郭清)	2
甲状腺癌(全摘)	7
甲状腺癌(全摘, 頸部郭清)	2
甲状腺癌(亜全摘)	4
甲状腺癌(全摘, 気管窓状切除, 頸部郭清)	1

小計 83

頸部

頸部腫瘍生検	19
頸部腫瘍切除	4
頸部郭清術のみ (原発操作に付属する頸部郭清)	11 (20)

小計 54

気管・喉頭

気管切開	15
気管孔肉芽切除	1
気管孔拡大	1
気管皮膚瘻孔形成	1
気管皮膚瘻孔閉鎖	5
プロボックスボイスプロテーゼ留置術 (Provox2:2, Provox Vega:3)	5
硬性鏡下喉頭腫瘍生検	20
喉頭全摘	4

小計 52

口腔・口唇

下口唇腫瘍切除	1
舌腫瘍生検	1
頬粘膜腫瘍切除	1
舌癌舌分切除	7
舌癌舌分切除, 頸部郭清	1
頬粘膜悪性腫瘍切除, 頸部郭清, 前腕皮弁再建	1
小計	11

咽頭

中咽頭検査・生検	2
中咽頭癌切除 (扁桃摘出), 頸部郭清	1
中咽頭癌切除, 頸部郭清, 腹直筋皮弁再建	1
下咽頭喉頭全摘, 頸部郭清, 空腸再建	2
佐藤式彎曲鏡下咽頭鏡検査・生検	10
小計	16

鼻副鼻腔

浅側頭動脈カニューレーション	1
鼻副鼻腔腫瘍生検	3
鼻外前頭洞手術	1
鼻腔平滑筋肉腫切除	1
小計	6

大唾液腺

耳下腺良性腫瘍	4
顎下腺腫瘍切除	2
小計	6

その他

頸胸部脂肪腫, 胸腔鏡併用	1
顔面腫瘍切除	2
悪性黒色腫切除, 頸部郭清	1
小計	4
合計	212

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年261件, 2013年265件と比較すると症例数だけを見ると5年前のレベルに逆戻りとなっている。ただし, 以前からの機能温存治療の流れに変わりはない。

【甲状腺癌】甲状腺症例は3年前と比較して手術件数が倍増していた。県内全域他科の先生方からご紹介が多くなってきたためである。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoring により反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を継続している。

【機能温存手術】当科の特色のひとつに喉頭機能温存手術がある。喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘 (CHEP:Cricohyoidepiglottopepy), プロボックス手術が当院で可能である。プロボックス手術は元議員の与謝野馨氏も受けた手術として有名である。2013年春から言語聴覚士の加入により患者目線の診療内容には深みが増している。さらに, 新しい機能温存手術として経口的咽頭癌切除の準備を始めている。これは, 近い将来の手術支援ロボットdaVinci導入を見据えての活動である。

【総評】手術以外にも頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。さらに, 県内主要施設, 県外施設との多施設共同研究は継続中である。当科はこれからも新潟県頭頸部癌治療のリーダーとして更なる発展を続ける責務がある。

(文責 佐藤雄一郎)

11. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	37
エキスパンダー挿入	1
乳房再建用エキスパンダー挿入	
一次	7
二次	5
乳房インプラント挿入	
一次二期	5
二次二期	1
縫合	2
植皮	2
有茎皮弁	2
遊離皮弁	6
消化管血管追加吻合	5
肝動脈再建	1
皮膚腫瘍	3
切除術	3

癒痕, 癒痕拘縮, ケロイド	4
<hr/>	
癒痕拘縮形成術	4
その他	11
<hr/>	
眼瞼下垂症手術	9
下眼瞼内反症手術	1
異物摘出術	1
計	55
<hr/>	

2013年10月から常勤化いたしました。手術件数は少数です。他科との手術に積極的に取り組み、ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。新たな負担をおかけしています関係部署に感謝申し上げます。(文責 坂村律生)